

## ■現場からの報告

## 福島復興に携わる大学生間の交流「福島飯館学生サミット」の開催

About “Fukushima Iitate Student Summit” for Students’ Interaction Involved in the Reconstruction of Fukushima

松野 大河<sup>1,3\*</sup> 圓林 悟<sup>2,3</sup> 伊藤 祐貴<sup>2,3</sup>Taiga MATSUNO<sup>1,3</sup> Satoru ENRIN<sup>2,3</sup> Yuki ITO<sup>2,3</sup>

**要旨：**東京大学の学生サークル東大むら塾の飯館班は、2022年9月に「福島飯館学生サミット」を主催した。これは、飯館村をはじめ福島第一原子力発電所事故で被災した12市町村で別々に活動していた大学生や学生サークルをつなぎ合わせるとともに、飯館村の活性化につなげることを目的として開催したものである。大阪大学、慶應義塾大学、東京大学、福島大学の4大学の大学生が参加した。1日目は村内見学と各団体の活動紹介、村長を交えた議論を実施し、夜に懇親会を行った。2日目は、東大むら塾飯館班が実施中の「いいいてて行政区ずかん」の住民取材を参加者全員で実施した。当サミットを通じて、各学生サークルが福島での自らの活動を相対化し今後の活動を考える参考になったほか、当サミットの後にも参加団体間の交流が生まれた。今後も、定期的にこのような形で福島復興に関わる大学生が集う場が必要と考えられる。当サミットの継続開催を視野に入れながら、大学生間の交流のあり方を考え続けていきたい。

**キーワード：**飯館村、東大むら塾、復興、学生サミット、学生サークル。

**Abstracts:** Todai Murajuku, a student club at the University of Tokyo, conducted “Fukushima Iitate Student Summit” in September 2022. It aimed both to make a new relationship of students and student clubs which did their activities in the twelve municipalities damaged by the Fukushima Daiichi Nuclear Power Station Accident and to contribute to the village. Four university students of which are Fukushima University, Keio University, Osaka University, and the University of Tokyo, joined the summit. On the first day, participants had a look around Iitate Village, were given lectures about the activities of each student club and discussed with the village mayor. In the evening, a student mixer was held. On the second day, all participants interviewed some villagers together for a booklet “Iitate Gyoseiku Zukan” which the Todai Murajuku is editing. The summit enabled the students to view themselves objectively, gave hints to them about what to do in Fukushima in the future. It also created a new interaction continuing even after the summit. Such an event seems to be required again. We continue to think about how to interact with student clubs concerning to those municipalities, including operating summit like this in the next year.

**Key words:** Iitate Village, Reconstruction, Student Club, Student Summit, Todai Murajuku.

## 1. 東大むら塾飯館班の概要

東大むら塾（旧東京大学むら塾。以下、むら塾という）は、東京大学の主に学部1-3年生百数十名により構成される学生サークルで、「農業×地域おこしでむらの未来を変える」をテーマに活動している。日常的な拠点として、千葉県富津市相川・梨沢地区と福島県飯館村の2カ所で活動を行っている。むら塾飯館班は、2019年6月に定期的な訪問を開始し、村の農家さんの協力のもとでの蕎麦栽培、福島大学食農学類農林サークル福桃とも共同で実施した村民へのインタビュー企画とその成果をまとめた小冊子「いいいてむらびとずかん」「いいいてむらびとずかん2」の作成、同サークルと共同での村内の道の駅「いいいてむらの道の駅までい館」へ花壇を設置、管理する事業を実施してきた。

この他団体についての詳細や活動の背景は、鎌倉・松野（2022）を参照願いたい。

<sup>1</sup>東大むら塾飯館班班長 <sup>2</sup>東大むら塾飯館班副班長 <sup>3</sup>東京大学教養学部

<sup>1</sup> Manager of Department of Iitate Village, Todai Murajuku <sup>2</sup> Deputy Manager of Department of Iitate, Todai Murajuku

<sup>3</sup> Faculty of Arts and Sciences, the University of Tokyo

Corresponding Author\*: matsunot10920@g.ecc.u-tokyo.ac.jp

2023年1月14日受理

## 2. 「福島飯館学生サミット」の背景

飯館村内では、原発事故以降複数の大学が活動している。飯館村（2022）によれば、東京大学や福島大学をはじめ大阪大学、明治大学、上智大学など少なくとも5大学が飯館村内で活動を行なっている。福島第一原発事故で被災した12市町村に視野を広げれば、さらに多くの学生による活動がなされている。しかしながら、これらの大学の活動は、飯館村でこそ大学教員同士では定期的な意見交換会があるものの、学生にとってはあまり相互に交流することなくそれぞれ単独で活動しているように見受けられた。一方で、東大むら塾においては個別に学生サークル間の交流を行うことがこれまであり、飯館班においても福島飯館学生サミット（以下、原則として当サミットと称する）の参加団体の一つである慶應義塾大学公認団体 S.A.L.あじさいプロジェクトと双方の活動の見学の構想を話し合うなど、団体間の交流の需要は実際にも十分にあるものと考えられた。

学生同士が顔を合わせる機会については、次のような意義があるものと考えた。第一に、学生にとっては互いの活動における長所や有効であった企画、悩み、失敗談の情報を交流することができ、それぞれの活動の改善につなげることができるであろう。また第二に、別の内容や場所での活動を行っている複数の団体の関係者が顔を合わせることで、とりわけ村内で活動する団体であれば今後共同で事業を実施したり、異なる地域で活動する団体同士であれば双方の活動拠点を見学する際に案内を相互で依頼したりすることができることも考えられる。第三に、学生と村長をはじめとする村関係者とが交流する機会となり、普段はあまり交流することのできない大学生の考えを交流する機会ともなり、村の活性化にもつながりうることも期待できる。

以上のような、現状と実施した場合の意義とを鑑み、複数の学生サークルが被災地で一堂に会する場を、「福島飯館学生サミット」と銘打ち2022年はじめて企画することとした。

## 3. 当日の活動

当サミットは、9月19日(祝・月)と9月20日(火)の2日間に渡り開催された。

当サミットの参加大学は、次の4大学となった。すなわち、むら塾飯館班（東京大学）、福島大学食農学類農林サークル福桃（以下、福大農林サークルと称する）、慶應義塾大学公認団体 S.A.L.あじさいプロジェクト（以下、慶應あじさいと称する）、大阪大学浜通り環境放射線研修（以下、阪大研修と称する）・大阪大学福島県浜通り地区復興支援サークル はまでいず（以下、阪大はまでいずと称する）である。このうち、阪大研修と阪大はまでいずは事実上合同での参加であり、また約1週間の研修の実施期間中のため当サミット1日目の一部時間帯での議論のみの参加となった。慶應あじさいのみ福島県沿岸部を拠点とする団体で、他は飯館村を活動場所とする参加団体の構成となった。

会場は、飯館村防災センター（旧飯館村立飯樋小学校）を中心としながら、1日目の午前を中心に村内各地を見学する行程となった。

1日目午前は、まず飯館村防災センターで開会式を実施し、ついで飯館村の現状を体系的に見て回ることを目的として村内周遊を行った。最初に訪れた場所は、飯館村で「センター地区」と呼ばれる場所で、村役場、村立小中学校・学童、診療所、特別養護老人ホーム、スポーツ公園と住宅街が立地する地区である。センター地区は飯館村の前身である大館村と飯曾村との合併に際して整備され、両村の境界に位置する。そうした経緯と、小中学校・学童、スポーツ公園の災害復興としての整備の状況、また村役場の村内有数の「事務所」としての位置付けを確認した。次に、村内最大の工場を擁する「菊池製作所」の外観を車内から確認した。次に村内の復興拠点の一つである深谷地区へと向かい、道の駅やその裏側に位置する公園、栽培施設、太陽光発電施設の見学を行なった。また、道の駅においてむら塾飯館班と福大農林サークルとで共同で設置した花壇の解説を行った。さらに関根・松塚地区へと移動し、暗渠の展示を行う土壌博物館や村の復興事業の一環として建設されたハウスの見学、水田放牧としての農地の活用状況を見学した。最後に、飯樋地区へと移動し集落営農による広大な農地の活用状況を見学し、飯樋市街の現状（解体された跡地の空き地が目立つ状況）を確認し村内周遊の行程を終えた。

1日目の午後は、村長との交流及び議論を行った。前半では阪大研修および阪大はまでいずと共同での実施となった。冒頭で村長から挨拶をいただき、ついで参加各団体の簡単な活動紹介を行い、これらを踏まえて研修中の大阪大学生が質問をする形で、各学生サークルの参加学生が具体的な活動内容や抱負などを共有した。阪大研修は大学生にできることを全体を通じたテーマとしており、実際に現地で活動している各サークルの話を聞くことにより刺激になったようである。後半では、大阪大学を除いた3大学間で議論を行った。冒頭では、村長から飯館村の開拓の歴史と重ね合わせる形で現在の復興の状況を考える見方を提示し、あくまで「よそ者」である大学生が現地と関わる上で大変参考になるお話を伺った。この村長からのお話を踏まえ、復興とは何かや学生サークルとしてできることについてさらに議論をし、互いの意見を交流した。夜は、村内の宿泊施設にて参加学生の懇親会を実施した。

2日目は、実際に村の方からお話を伺うことを目的として、飯樋地区3行政区および比曽行政区の区長からお

話を伺った。この際、むら塾飯館班が実施している、飯館村内の行政区の事故前後の風土をまとめた「いいいて行政区ずかん」の取材と合わせる形で村での文化や自然などについてお話を伺うことで、テーマを明確にし、お話を伺いやすいようにした。最後に、感想共有をし、2日間のサミットを終えた。

#### 4. 「福島飯館学生サミット」開催後の展望

参加者からは、自分のサークルの立ち位置や活動を相対的に捉えられ活動の参考となったといった声が多くあったほか、これまで学生団体としての限界を感じる事が多かったが村長や村の方との交流を通じて学生としての村にどんな影響を与えられているのかを確認することができたといった声もあった。

サミットの開催後は、それまで交流のほとんどなかった団体間も含めて、参加団体同士の交流が深まっている。むら塾飯館班と慶應あじさいとの間では、11月にも共同で「いいいて行政区ずかん」の取材と合わせる形で合同で飯館村内で活動を実施したことがあるほか、慶應あじさいが都内で企画したイベントに招待されむら塾飯館班員数名が参加したこともあった。慶應あじさいの関係者はその後当サミットで使用した宿泊施設を複数回利用しており、村の交流人口の増加にも寄与している。主著者（むら塾飯館村班班長）個人の経験としては本サミットを通じたやりとりを通じて阪大はまでいずや慶應あじさいの方に福島県沿岸部の状況を紹介いただく機会を設けていただいたこともある。

このように、当サミットによって学生間で交流したことによる効果は十分に発揮されたものと考えている。今後も、定期的にこのような形で復興に関わる大学生が集う場が求められていると言えよう。しかしながら、課題も大いに残されている。まず、情報発信に関する課題である。当サミットは飯館村広報誌（飯館村、2022）において紹介されたほか、福島民報（2022）においても取り上げていただいた。しかしながら、参加各団体の活動詳細をまとめたような資料はないのが現状である。今後はそうした資料を作成することも検討すべきであろう。また、福島県沿岸部も含めれば活動する学生団体・大学等が多数ある中で、当サミットに参加したのはそのうちのごく一部に限られているのが実情である。この実情を踏まえ福島県沿岸部での状況をいっそう視野に入れた企画とする方針としてサミットの開催場所や参加団体をいっそう飯館村外へ拡大していくことが考えられる。一方対極的に、より多くの村の方に協力いただき、お話を伺う村の方を増やすという、村内での活動を充実していく方法も考えられる。構想段階ではあるが、日数を拡大し被災12市町村の議員の方をお呼びすることや、被災12市町村出身の同世代の方をお呼びして相互に交流するといったことも検討して良いだろう。最後に、運営にあたった学生団体としては運営に稚拙な点があった点も付記しなければならない。こうした反省も踏まえながら、今後のサミットをはじめとする大学生間の交流のあり方を考えていきたい。

#### 5. 謝辞

実施にあたり様々な助言と支援を下さった東京大学大学院農学生命科学研究科でむら塾顧問の溝口勝氏や、実施に協力いただいた杉岡誠村長をはじめとする飯館村役場の皆様に感謝したい。また、今回の学生サミット開催では、大学等の「復興知」を活用した人材育成基盤構築事業の「飯館村における将来世代への復興知継承に向けた教育研究プログラム」（代表：溝口勝）の支援を受けた。ここに記して謝意を表する。

#### 引用文献

飯館村 2022. 特集「飯館村×大学生」. 広報いいいて, 704, 8-11.

鎌倉啓伍・松野大河 2022. 飯館村における東大むら塾の活動. 復興農学会誌, 2, 43-49.

福島民報 2022. 福島県飯館村の地域活性化や復興のアイデア発表 初の「学生サミット」. 2022-09-20, 朝刊.

表1 時程表

| 日付・時間     | 内容                                    |
|-----------|---------------------------------------|
| <1日目>     |                                       |
| 09時       | 開会式・東大むら塾顧問溝口勝氏からの挨拶（於・防災センター）        |
| 09時半～12時  | 村内周遊                                  |
| 12時～13時   | 昼食                                    |
| 13時～14時半  | 村長との議論・大阪大浜通り環境放射線研修との交流と議論（於・防災センター） |
| 15時～17時半  | 団体活動紹介・参加者紹介・議論（於・防災センター）             |
| 18時～20時ごろ | 夕食（バーベキュー）（於・貸切型ゲストハウスCOCODA）         |
| 21時ごろ～    | 懇親会（於・各宿泊場所）                          |
| <2日目>     |                                       |
| 08時ごろ     | 朝食（於・各宿泊場所）                           |
| 09時～11時半  | 村内周遊2・村の方とのお話                         |
| 11時半～12時  | 感想共有（於・防災センター）                        |
| 12時半      | 閉会式（於・防災センター）                         |



図1 村長からの挨拶の様子



図2 大阪大学生も交えた議論の様子





図3 村内周遊中にむら塾担当者から説明を受ける様子（村内の道の駅にて）



図4 サミット終了後の3団体の集合写真（慶應あじさい撮影）